

ACCESSIBLE DESIGN

The Periodical of

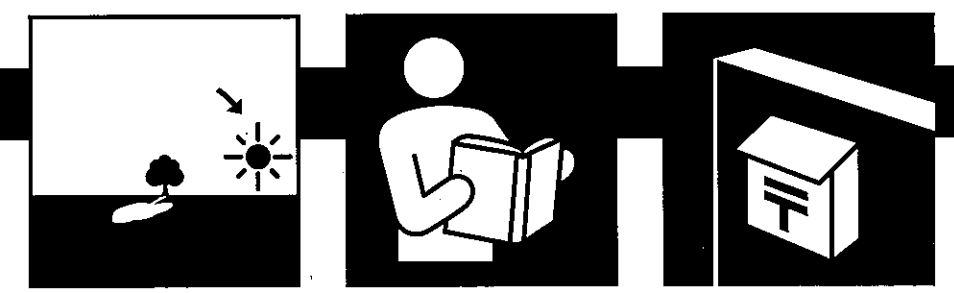
アクセシブルデザインの総合情報誌 インクル No. 50

2007 (平成19) 年9月25日

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)
共生社会の実現を願う妖精「インクル」 「包括的教育理念」を意味する英語「インクルージョン」から名付けました

目次 / contents

- 高齢者・障害者の公共交通機関不便さデータベース
交通エコモ財団がHPに公開、機構も協力 (竹島恵子) 2
- 「神保町シアタービル」でバリアフリーサービス研修
まずは「ひと声かける」をスタートラインに (浅和一雄) 4
- <随想 私と共用品> 第29回
優しさから栄養をもらえる共用社会へ (高橋玲子) 6
- <この業界・この団体> 輪ベターリビング
高齢者・障害者にも優しい住宅部品を普及 (高嶋健夫) 7
- <ニュース&トピックス>
コーポレーションパールスターがトイレ用防汚剤を発売 (高嶋健夫) 8
「サイトワールド2007」開催/松竹、『武士の一分』バリアフリー仕様DVDを
発売/TOTO、6輪タイプの「水まわり用車いす」を発売 (高嶋健夫) 9
- <キーワードで考える共用品講座> 第49講
「共用品と供給(上)…みんながみんなに」(後藤芳一) 10
- <事務局長だより> 「コミュニケーション」で知る不便さ (星川安之)
共用品通信 11
- <わが社のエース> とらや「虎屋菓寮」(喫茶)
ハード、ソフト両面から「バリアフリーのおもてなし」(高嶋健夫)
奥付 12



■ 「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T0103)」に収録されている絵記号例。左から「タ」 「読む」 「郵便受け」 (共用品推進機構ホームページから無償ダウンロードできます)

高齢者・障害者の公共交通機関不便さデータベース 交通エコモ財団がHPに公開、機構も協力

交通エコロジー・モビリティ財団（交通エコモ財団、会長・井山嗣夫氏）は「高齢者・障害者等の公共交通機関不便さデータベース」を構築し、同財団のホームページ上に公開した。交通機関に対する高齢者や障害者のニーズなどに関する各種調査結果を体系的にまとめた初の総合データベースで、構築に当たっては財共用品推進機構も協力をした。そこで、その概要や使い方について、交通エコロジー・モビリティ財団バリアフリー推進部の竹島恵子さんにご寄稿いただいた。

みなさんは、鉄道やバスを利用して、他の利用者がどんなことに不便さを感じているんだろうと思ったことはありませんか？

高齢社会の本格化が間近となっている中で、国土交通省は、高齢者、身体障害者が交通施設を利用する場合の安全性や利便性を向上させるため、平成12（2000）年に「高齢者、障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（交通バリアフリー法）」を施行しました。同15（2003）年には特定建築物の範囲の拡大、同建築をする場合の利用円滑化基準への適合義務の創設などを盛り込んだ「高齢者、障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（ハートビル法）」の法改正を行いました。そして昨年6月には、交通バリアフリー法とハートビル法を統合した「高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」が公布され、同年12月20日に施行されました。

鉄道2495件、バス512件を個別検索可能

交通バリアフリー法・ハートビル法の施行以来、駅などの特定建築物や交通機関のバリアフリー化が進められ、現在まで、障害者や高齢者の意識やニーズについては、個々に調査はされていました。しかし、総合的に閲覧できるデータベースはありませんでした。

そこで、交通エコモ財団では、利用者であ

る高齢者、障害者に対して、これまで実施された各関係機関の調査結果を基に「不便さに関する事項」を軸として整理し、交通バリアフリー化を推進するための資料とする目的で、財共用品推進機構にご協力いただき、データベースを構築することにしました。

まず、データは平成5（1993）年10月から同18（2006）年3月までに各関係機関で実施された、障害者や高齢者などの駅、公共交通機関の利用状況についてまとめた23の調査報告書やパブリックコメントなどの内容を整理し、駅や交通機関（鉄道・バス）の利用者が実際に感じている不便さや利便さなどの意見を抽出しました。それらのデータをハード面・ソフト面、障害別などに分類・整理し、データベース化することにより、鉄道に関しては2495件、バスに関しては512件の個別検索が可能となりました。

それら報告書を整理したところ、鉄道・バス共に視覚障害者からのご意見が多く、次いで、鉄道では聴覚障害者、バスでは高齢者となりました。また、意見の対象となる場所は、鉄道ではプラットフォームに関する意見が半数近く占め、続いて、改札口（21.2%）でした。改札口外では、券販機およびその周辺（76.3%）に対する意見が圧倒的に多いことがわかりました。

また、バスでは、特にサービスや乗降時の誘導・応対など、ソフト的な対応に関する意

高齢者・障害者等の公共交通機関不便さデータベース

検索のトップページ (上) と、検索メニューの一覧画面 (下)

【利用者の属性】	【場所の分類】	【意見の対象】
高齢者	駅	乗降
障害者	バス	乗降
高齢者・障害者	バス	乗降
高齢者・障害者	バス	乗降
高齢者・障害者	バス	乗降

見が多くなっていました。

構築したデータベースは、どなたでも簡単に調べる、閲覧することができるように、「利用者の属性」「場所の分類」「意見の対象」からご覧いただけます。ご覧になりたい項目をクリックすれば意見一覧が出てきますので、是非一度お試しください。より多くの方々にご使用いただき、ご意見などをお寄せくださいますようお願い致します。このデータベースはこれで完成ということではなく、どんどん追加していきたいと考えていますので、関連する調査結果をご提供いただける方はご連絡ください。お待ちしております。

バリアフリー整備ガイドラインも改正改善

一方、昨年バリアフリー新法の制定を受け、従来のガイドラインを改正する作業が昨年12月から始まり、当事者である高齢者、身体障害者、新たに対象となった知的、精神、発達障害者の団体、ならびに交通事業者などが集まり、新たな公共交通機関のバリアフリー整備ガイドラインが策定されました。

この中には、財共用品推進機構が事務局となり標準化された新しい日本工業規格（JIS）である「点字表示原則及び点字表示方法—公共施設・整備」（JIS T0921）、「触知案内図の情報内容及び形状並びにその表示方法」（JIS

T0922）、「公共トイレにおける便房内操作部の形状・色・配置及び器具の配置」（JIS S0026）、「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則」（JIS T0103）が引用されており、これから鉄道駅や飛行場など公共ターミナルにおいて活用されます。

また、それらの標準化は公共交通機関だけでなく、病院や役所などの公共施設や一般施設においても広く活用され、高齢者や障害者の不便さの解消に大きく寄与することが期待されています。なお、同ガイドラインは、国土交通省、交通エコモ財団のホームページで公開しています。（竹島恵子）

不便さ調査データベース

http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/fubensa/index.html

■「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」 「公共交通機関の車両等に関する移動等円滑化整備ガイドライン」（略称：バリアフリー整備ガイドライン〔旅客施設編・車両等編〕）ダウンロード http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/h18/guideline/guideline/guideline_index.htm

「神保町シアタービル」でバリアフリーサービス研修 まずは「ひと声かける」をスタートラインに

小学館、吉本興業が運営するミニシアター「神保町シアター」とお笑い専門劇場「神保町花月」が入居する話題の新プレイスポット、「神保町シアタービル」が7月にオープンした。開館に先立って、(財)共用品推進機構が全面協力する形で、同ビルのスタッフを対象にしたバリアフリーサービス研修が実施された。そこで、同研修の企画・実施を担当した(株)アサツー ディ・ケイ (ADK) プロモーション本部購買支援室の浅和一雄氏に、概要を報告していただいた。

去る7月7日に「神保町シアタービル」が本の街として有名な東京・神田神保町にオープンしました。このビルの映画館、演芸場などの施設は小学館と吉本興業が運営に当たるとい、一見、異色の組み合わせであることや、外観がまるで孵化する卵をイメージさせることをはじめ、内部の施設や上映・上演されるコンテンツでもユニークな試みが展開されていることなどから、今、大きな注目と期待が集まっています。

約20人が参加し、 「不便さ対応」を実地研修

このビルのオープンがまさに目前に迫った7月4日、共用品推進機構の星川安之専務理事、信井洋子さん(手話通訳士)、高橋秀子さん(INAX勤務、電動車いす利用)、加藤満裕美さん(日本点字図書館勤務、全盲)、野口浩一さん(オリエンタルランド勤務)に

講師をお願いして、これからこのビルの来館者サービスを担うスタッフや関係者を中心とした約20名の方々を対象に、バリアフリーサービス研修を実施させていただきました。

今回の研修の依頼があった時、私はまたとない機会なのでいろいろな場面を想定したプログラムを考えてみました。しかし、研修時間が3時間であること、そして受講される方々のほとんどがこれまで障害のあるお客様の接遇経験に乏しかったことなどを考えて、研修のゴールイメージを「神保町シアタービルのスタッフは、障害のあるお客様が来館された時に、気軽に声をかけることができる」に絞ることにしました。

なぜならば、多くの人は障害のある方が困っていらっしゃるような場面に遭遇した時は、何か協力をしたいと思うものですが、恥ずかしさやいろいろと考えてしまってなかなか声がかかれず、結局は何もしないで通り

■神保町シアタービルの概要

▼所在地 東京都千代田区神田神保町1-23

▼アクセス 都営地下鉄新宿線・三田線、東京メトロ半蔵門線神保町駅下車徒歩3分、JRお茶の水駅同8分(神保町駅からはA7出口より、すずらん通りを三省堂方面に進んでSパーミヤンの裏)

▼開館 2007年7月7日(土)

▼施設 地下2階、地上6階建て。地下1-2階は「神保町シアター」(客席約100席、車いすスペースは2席分あり)として主に映画を上映。デジタルコンテンツ対応の上映装置をはじめ、THX標準規

格の認定を受けた最新の音響システムを採用。組み立て式ステージ(5.4m×2.1m)の設置も可能で、この際の座席数は90席となる。

地上1階がロビーで、2-3階は番組制作とスタジオ機能も備えた吉本興業のお笑い専門劇場「神保町花月」(客席126席)。4-6階は吉本興業のタレント養成学校と事務所。

▼「神保町シアター」ホームページ

<http://www.shogakukan.co.jp/jinbocho-theater/>

▼「神保町花月」ホームページ

<http://www.fandango.co.jp/jinbocho/index.html>

過ぎてしまうことが多いと思います。ですから、神保町シアタービルのスタッフの方々は、まず「ひと声かける」ことからスタートする必要があると思ったからです。

そこで研修は2部構成として、第1部ではまず、各講師から日常生活や仕事などで感じた不便さや今までに受けた手助けで嬉しかったことなどを中心にお話ししていただきました。第2部では、講師と受講者を3班に分け、お客様の動線に沿ってビル内を実際に移動しながら、床の段差や階段、エレベーター、トイレ、案内表示、照明など、障害のある方にとって不便であったり、危険であったりする場所を講師が指摘し、同時にその場所での具体的な対応方法やマナーなどを説明していただきました。

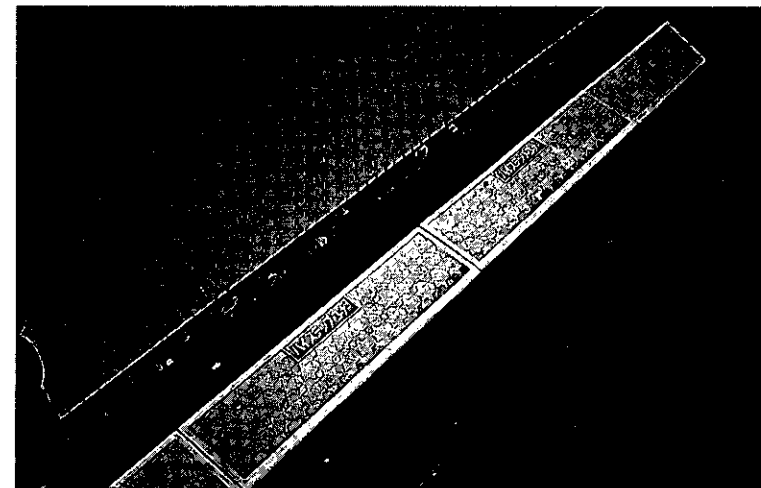
今回の研修を通じて、スタッフの方々が最初につぶやく「ひと声かける」という壁が、どれくらい低いものになってくれたかはわかりませんが、実地研修の中での講師との会話や、簡単な手話を会得しようとする受講者の皆さんの真剣な表情を眺めながら、確かな手

応えを感じました。

最後に、バリアフリーサービスの普及にご理解をいただき、今回、研修という素晴らしい機会を与えてくださった、小学館の相賀昌宏社長、平山隆取締役、佐藤善孝執行役員、船山博志課長、神保町シアターの犬矢敏支配人、小学館不動産の草分孝雄さんなど関係者の方々に、この誌面をお借りして心から御礼を申し上げますとともに、引き続き今後ともご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。(浅和一雄)



■「神保町シアタービル」のバリアフリー研修で講義する講師陣



■入り口前の歩道に設けられたスロープ

優しさから栄養をもらえる共用社会へ

たかはしれいこ
高橋玲子 (株)タカラトミー安全・環境統括室社会環境課係長、個人賛助会員

「こっちこっち」「お手伝いしましょうか？」
「席空きましたよ」「どこまで行くの?」「青
ですよ」……いろいろな言い方があり、状況
に応じて内容もさまざま。でも、白い杖を携
え、片道1時間強の道のりを電車と徒歩で通
勤する私が、そこで出会う名も知らぬ方たち
と、こんな言葉を交わさない日は1日たりと
もありません。その度に、人はなんと優しい
のだろうと思い、その優しさを毎日心と身体
いっぱいを受けている自分はなんて幸せなん
だろうと思います。恥ずかしかったり、気後
れしたり、自分中心に考えてしまったりで、
なかなか人に優しくできない私には本当に
もったいない幸せです。



この十数年間に、社会は大きく変わりました。
ようやくたどり着いた、紙バックが並ぶ
広いスーパーの大きな冷蔵庫の前で、近くに
やってきた人の気配をとらえてやっとの思い
で「あのう、牛乳がほしいんですけど、取っ
ていただけますか?」と言ったのに、びっ
くりしたのか、聞こえなかったのか、本当は人
などいなかったのか、何も応えてもらえず、
その場で私はもう再起不能なぐらいに凍り付
いてしまう。予定していた他の買い物をする
元気もなえて、せっかく行ったスーパーから
何も買わずに逃げ帰る……そんな経験が、20
年近く前、一人暮らしを始めたばかりの私に
は何度となくありました。

すっかり度胸の据わったおばさんに成長し、
お店や街で何かをお願いする際のちょっぴり
スリリングで楽しいゲームのようなノウハウ
もたくさん身につけた今の私。まだそのよう
なノウハウは知らないだろう、近所に住む若
い全盲の後輩を気遣って、「〇〇店での買
い物、大変?」とたずねたら、逆に「えっ?
入り口にあるボタンを押してインターホンで
『視覚障害者です』って言うとサービスカウ
ンターから案内の人が来てくれるようになっ

たんですよ」と教えら
れてしまいました。

人通りの多い店の入
り口で、ひとりイン
ターホンに向かって
はっきりと「視覚障
害者です」と言うのには
少し勇気が要ります。でも、いつでも堂々と
介助をお願いでき、セールコーナーの人混み
に自分も分け入ることのできる喜び、どの売
場へ行こうともずっと隣に頼れる方がいてく
ださる安心感、「あっ、これおいしいんです
か? 今度私も買ってみよう」と楽しそうに
してくださる案内の方……こんなうれしい未
来は、冷蔵庫の前で凍り付いていたあのころ
の私にはとうてい想像すらできませんでした。



先日、出張先で夜遅く、地下鉄の駅から最
寄りのビジネスホテルまで独力で行かなけれ
ばならないことがありました。「人に聞きな
がら行きますので、〇〇ホテルまでの行き方
と目印を教えてください」と駅員さんにお願
いしたら、「ちょっと行ってくる」と周囲に
断り、なんと歩いて5分ほどのホテルまで連
れて行ってくださいました。びっくりして感
謝する私に、「お客さんが元気で明るいから、
助けたいって気分になるんですよ」と言っ
てくださった駅員さん。社会が「共用品」に近
づいて、優しい心とそれを恥ずかしがらずに
表現できる土壌が生まれ、そこから栄養を
もらって生きている私も少しずつ変えられて
いるのだと思います。

みんなが幸せを感じられる「共用社会」を
目指して、ときには踏ん張り、ときには憤り、
ときにはちょっぴり悲しみ、そしてたくさん
楽しみ、感動しながら、これを読んでくだ
さっているみなさんといっしょに、これから
も少しずつ歩んでいけたらと思います。

(題字は中野奈津美・財共用品推進機構運営委員)



<この業界・この団体>(財)ベターリビング (BL)

高齢者・障害者にも優しい住宅部品を普及

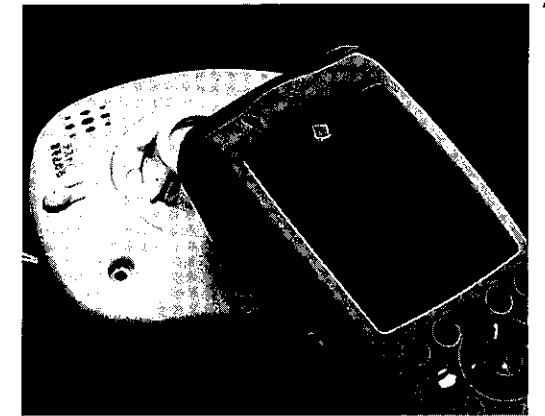
ベターリビングは、安全で快適な「住まい
作り」に関わる事業を展開する国土交通省所
管の公益法人。主な事業には、①「優良住宅
部品 (BL部品) 認定制度」の運用、②住
宅・同部品部材の性能評価や適合性試験、③
住宅・建築分野における国際標準化機構の認
証制度 (ISO9001、同14001など) の審査登
録、④住宅関連の調査・研究——などがある。

このうち、「BL部品」認定制度は、品質・
性能・アフターサービスなどに優れた住宅部
品を認定し、「BLマーク証紙」を発行するも
の。現在、52品目・約300社の製品が認定を
受けている。「BLマーク」が貼付された製品
には独自の「BL保険」が付き、品目によっ
て2年から最長10年の無償修理と20年間の損
害賠償を保障している。

「トレーサビリティ管理システム」運用開始

さらに「BL部品」のうち、環境保全への
寄与、防犯性の向上など社会的要請の強い性
能や品質を持つ先導的部品を「BL-bs部品」
として認定。認定要件の中には、「高齢者、
障害者を含む誰もが安全かつ快適な生活を
送ることができる社会の実現に寄与する」と
いう項目もあり、警報音の音域を高め、高齢
者や聴覚障害者でも聞きやすい「住宅用火災
警報器」が認定されている。

同財団では昨年度から「住宅部品のトレ
ーサビリティ管理システム」の構築に取り組
んでいる。これは、同財団に設置したサー
バーで、部品メーカーが登録した「製品情報」
と設置業者が登録した「設置情報」を「住
戸管理情報」として一元管理し、どこでいつ製



●2006年度から、まず「住宅用火災警報器」で
実運用が始まった「住宅部品のトレーサビ
リティー管理システム」の専用携帯端末

財ベターリビング

設立 1973年2月 (88年に現名称に)
会長 今井 敬 (いまい たかし) 氏
事務局 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-
36 FUJIMI WEST
問い合わせ先 TEL: 03-5211-0680 (お客様相談室)
ホームページ <http://www.blhp.org/>

造された製品が、どの住宅に、いつ誰が設置
したかを追跡確認できるようにしたもの。工
事ミスの防止や点検・修理などの維持管理業
務の適正化・効率化につながることを期待さ
れている。

第1弾として「住宅用火災報知器」で運用
を開始。すでに首都圏の共同住宅で設置ミス
を事前に発見するなどの成果を上げていると
いい、今後、他のBL部品にも順次広げてい
く計画だ。(高嶋健夫)



<アクセシブルデザインの普及に向けて一言> “住宅部品のユビキタス化”に対応した配慮を

兼澤 昭 (かねざわ あき) (財)ベターリビング住宅部品評価登録グループ長・新事業企画推進部長

住宅部品・設備分野でも近年、「共用
品」的な発想・考え方が強く求められて
いる。例えば、「ユビキタス社会」の到
来で、ガス給湯器や照明器具にもリモ
コンが使われるようになっていく。当然、
それらにも情報機器、一般家電製品など
と共通の表示やプラットフォームの採用、
音声ガイドの導入など、誰にとっても使
いやすい配慮や工夫が必要になる。

当財団でも住宅関連業界への啓発活動
に取り組んでいるが、さらに関心を高め
るために本部ロビーに共用品の展示コー
ナーを開設することも検討、共用品推進
機構にも協力をお願いしているところ
だ。

こうした地道な取り組みを続け、高齢
社会にふさわしい良質な住宅の普及を
加速させていく所存だ。(談)

社会福祉法人と提携し、トイレ用防汚剤を発売 自立支援の一助に、生産は知的障害者施設に委託

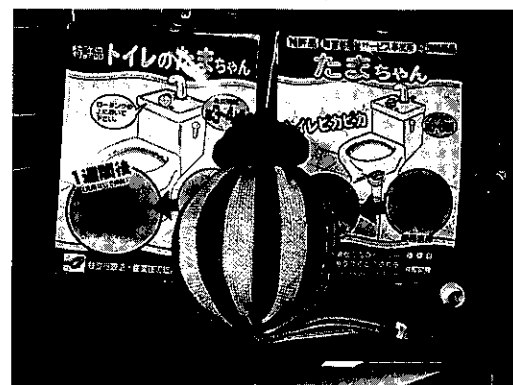
「色がかんたんにわかる靴下」「転倒防止靴下」など障害者・高齢者向けの独創商品を開発・製造しているコーポレーションパールスター（本社広島県東広島市）は新たにトイレ用防汚剤「たまちゃん」を開発し、8月から本格販売を開始した。同市の社会福祉法人「倫」と提携、同法人が製造・販売元となり、実際の製造は知的障害者施設に委託する。同社の技術開発力を活かした新製品を、社会福祉法人の持つ福祉用具の販売ネットワークによって拡販、併せて知的障害者の自立支援に役立てようというユニークな取り組みといえ、今後の成果が期待される。

産総研関西センターと共同開発

「たまちゃん」は直径8cmの球状の防汚剤で、トイレのタンク上の蛇口に架けるか、タンク内部に沈めて使用する。外袋はポリプロピレン製で、球の内部にはシリコンを含浸させたポリプロピレン不織布が入っており、そこからシリコンがタンク内の水に少しずつ染み出て、便器の汚れを落とす仕組み。使用開始から1週間程度でそれまで落ちにくかった汚れもきれいになり、効果は6～8週間持続するという。重さは36g、色はイエロー、グリーンの2色で、希望小売価格は1365円。

開発に当たっては、(独)産業技術総合研究所関西センター（大阪府池田市）と共同開発契約を結び、環境への安全性や原理証明などで全面協力を得た。

開発者のコーポレーションパールスターでは商品化に当たって、「障害者の雇用促進や自立支援に役立つようなビジネススキームを実現したい」（新宅光男専務）と考え、(社)広島県就労支援センターに特許実施権を付与し、



■トイレ用防汚剤「たまちゃん」(上)と、「黒瀬ありんこ」での生産風景(下)



同センターの推奨品として社福法人「倫」を窓口販売することにした。

具体的には、パールスターから倫に材料を有償で供給、同社の技術指導の下で広島県内の知的障害者施設「黒瀬ありんこ」などで最終アSEMBLを行ない、完成品を倫を経由して障害者施設が作った商品販売する専門店「夢プラザ」や生協ルートなどで販売する。

同社では当面月間3000個の販売を目指しており、今後は県内の金融機関や大手企業にもノベルティー用などの形で購買支援を働きかけていく考え。新宅専務は「経済的に苦しい知的障害者に少しでも貢献できるように、私自身も営業活動を積極的に支援していきたい」と意欲を見せている。

なお、同社は10月の国際福祉機器展(HCR2007、帝人ブース内)、11月の「サイトワールド2007」に出展する予定。

たかしまたけお (高嶋健夫)

■問い合わせ先：社会福祉法人「倫」(TEL: 0823-83-1046 FAX: 0823-81-0113)

「サイトワールド2007」、11月2～4日に開催 東京・錦糸町の「すみだ産業会館サンライズホール」で

(社福)日本盲人福祉委員会主催による視覚障害者のための総合イベント「サイトワールド2007」が11月2～4日の3日間、東京・錦糸町の「すみだ産業会館サンライズホール」(丸井錦糸町店8・9階)で開催される。

第1回の昨年は7000人以上が来場、熱気あふれるイベントとなったが、2回目となる今回も40以上の企業・団体が出展する視覚障害者向け機器・サービスの総合展示会を中心に、

坂村健・東大教授による講演会(2日)、ライフサポート学会による学術発表会(3日)、『幸せの黄色いハンカチ』『ラヂオの時間』など3作品を副音声DVDを使って上映する映画鑑賞会(2～4日)などの多彩な催しが予定されている。

たかしまたけお (高嶋健夫)

■ホームページ <http://www.sight-world.com/>

『武士の一分』、バリアフリー仕様DVDで発売

昨年12月に劇場公開され、大ヒットした松竹映画『武士の一分』(山田洋次監督、木村拓哉主演)が、バリアフリー仕様のDVDソフトとして発売され、話題を集めている。邦画でありながら日本語・英語の各字幕が選択できるほか、通常のステレオ音声のほか、副音声方式による音声ガイドも選択できる。音声ガイドはNPO法人「シネマ・アクセス・パートナーズ」が担当し、登場人物の動きや情景描写など、台詞以外の「ト書き」の部分を女性ナレーターが語ってくれる。

松竹では同作品の劇場公開時に、日本では初となるフィルムそのものに音声ガイドを焼

き込む形での上映を実施。DVDの発売に当たっても「映画を楽しむ機会の少ない聴覚障害者、日本語がわからない外国人、さらには映像が見えない、見づらい視覚障害者の方々にもこの名作を楽しんでほしい」(李信雨・映像本部映像商品部長)とバリアフリー仕様に踏み切った。音声ガイドの制作には、同作品の製作委員会にも名を連ねている住友商事が資金面での支援を行っている。

同DVDソフトの希望小売価格は通常版が3990円、3枚組豪華版が6405円。なお、バリアフリー仕様はセル用DVDのみで、レンタル用には付いていない。

たかしまたけお (高嶋健夫)

6輪タイプの「水まわり用車いす」を発売

TOTOは車輪を6輪にし、住宅内での回転性能や段差越え性能を向上させた「水まわり用車いす6輪タイプ」=写真=を発売した。

この車いすは後輪を大型化し、さらにその後方に補助輪を装着した室内用の多目的車いすで、室内での移動はもちろん、座ったままの状態トイレの温水洗浄便座や浴室でのシャワーを利用できる。ドア開口部が500mmでも通過できるコンパクトな設計で、小回り

性能や70mmまでの段差越え性能を高めたうえ、補助後輪によって段差越えの際の後方転倒も防止するのが特徴。希望小売価格は11万9700円。TOTOでは初年度5000台の販売を見込んでいる。



たかしまたけお (高嶋健夫)

■問い合わせ先：TOTOお客様相談室 (TEL: 0120-03-1010)

「共用品の供給(上)ーみんながみんなに」

後藤芳一 (共用品推進機構運営委員、日本福祉大学客員教授)

共用品③⑥⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ (小さい添え字①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿) は、同様の用語が本講の第1～48講に既出であることを示す) は、共用の仕様で不便さ④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿に対応するため、市場規模②①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿を確保できて安く提供できる。その裏返しに、供給者は、大手企業⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿が中心になるという制約がある。共用品を一層普及させるには、供給者の裾野を広げたい。「一部の人がみんなに」を「みんながみんなに」に広げること。本稿は、供給主体(「主体」と)と、製品が対象とする利用者(「対象」と)の組み合わせをもとに整理する。

1. 「従来型」(主体=限定、対象=共用)

現在の共用品の主な供給者が、ここに含まれる。消費財の大手メーカーが中心的存在であり、これらのメーカーは優れた共用品を供給している。だが、需給全体をみれば、条件を満たす一部の企業に供給主体が限られる、という課題がある。

市場規模が大きいのは、家庭電化製品⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、映像機器⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、ビール・酒⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、住宅設備⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿であり、電気・情報⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、食品⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、容器・包装⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、建材⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿などのメーカーが供給している。消費財は個々の商品の単価は安い、その分、大量に生産・流通⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿させる必要があり、製造⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、流通の大規模な設備や情報化④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿への投資を要する。こうした条件を満たすのは、大手企業に限られることになる。

2. 「当面」(主体=広い、対象=一般)

まず手がけやすいのは、供給者の領域を広げること。裾野が広がると、優れた成功例が生まれやすくなる。大手企業から、中小企業⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿や地域の企業、社会起業家、個人、利用者⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿(例：シニア⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、不便さのある人)などへ、供給主体を広げる。当初は本格的な共用品でなくても、「シニアによる起業⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」「地域特性を活かしたデ

ザイン④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」「伝統技術を用いた事業化」など、将来の共用品供給への裾野が広がることが期待される。

シニアによる起業例は、中小企業庁(2007年度からは中小企業基盤整備機構⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)による「創業・ベンチャー国民フォーラム⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」が、「シニア起業家賞」として顕彰している。受賞者はいずれも60歳前後で起業し、優れた取り組みを行っている。地域の取り組み例は、地元のデザインの蓄積を活かした「かがわユニバーサルデザイン④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」研究会がある。有田焼の企業グループ(佐賀県)は、中小企業新事業活動促進法⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿による「新連携⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」(中小企業庁・中小機構)の制度を用いて、高齢者⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、介護⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、航空機搭載用や学校給食用の軽量食器を事業化した。

3. 「将来」(主体=広い、対象=共用)

将来的には、この領域の事例が輩出することが期待される。大手企業以外の、幅広い分野の供給者が、共用品を供給するようになることであり、部分的にはすでに優れた取り組み事例がある。

日本セイフティー④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿(東京都)は、排泄物を自動で包装処理して臭いを抑えるトイレ「ラップポン⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」を開発した。中小企業による優れた技術の活用例といえる。完装⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿(福岡県)は、反射式駐車案内シール「サンクリア④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿」を事業化した。高齢の経営者が自らの不便さをもとに開発し、その設置には建設業の経験を持つシルバー人材を活用している。特殊衣料⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿(北海道)は、転倒保護帽「アボネット」を事業化した。雪道での転倒予防ニーズをとらえた。案件ごとに、プロダクトデザイナー④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、理学療法士④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿などの医療・福祉④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿の専門家を集めた開発委員会を組織し、常勤雇用することによる固定的経費を抑えつつ、高度な専門的知見を活用する独自のビジネスモデルを構築した。

「コミュニケーション」で知る不便さ 心の目・耳・指で受け止めたい

☆…平成19年度の事業は、8割方がスタートしている。国際標準化機構(ISO)の中に設立されるアクセシブル・デザイン・アドバイザー・グループ(ADAG)発足に向けての準備も、その1つ。正式には、今年11月にポーランドのワルシャワで行われる会議で承認される予定だが、ここでは、障害のある人のニーズを規格づくりに反映させることが大きな事業になる。

そのため、国連と連携している国際障害者連盟(IDA)に加盟する8つの国際組織とのコミュニケーションを図り始めている。昨年情報交換を行い、連携することを合意した、視覚障害、ろう、DPI、リハビリテーションの4機関に加えて、今年は知的、精神、盲ろう、難聴の各団体とも連携をとる計画だ。

その関連で先日、日本の精神障害者団体の方々にお話をうかがう機会があった。当事者でもある事務局長に「日常生活で不便なことはありませんか?」とたずねたところ、「早く

話されると、私たちはわからないことがある。なるべくゆっくり話してほしいですね」と答えられた。

「例えば、パソコンが故障したり、操作がわからなくなったりした時に企業のコールセンターの人が電話で教えてくれる話し方はとてもわかりやすい。同じことを電話の向こう側でもやってくれている安心感と、問題が解決しないうちは決して前へは進まないの、1つひとつ段階を追って理解することができます」

☆…別の19年度事業である「日中韓3カ国によるAD規格の国際化」で先日、中国を訪問した。入国の際、北京空港の入管ゲートで、人の顔を描いた「絵記号」を発見。大きな笑顔、普通の笑顔、少し困った顔、怒った顔——の4種類の絵を描いたボタンが、係りの人の前に設置されているのである。

「なんだろう?」と思って見ていると、入国審査を受けた旅行者が、自分のパスポートチェックをした中国人係官の対応を評価するアンケート

星川
安之



事務局長
だより

トだとわかった。係員の対応がよければ、「大きな笑顔」ボタンを押してもらえる。来年の北京五輪に向けた準備の一環であろう。

障害のある人だけではなく、共通言語を持たない人々間のコミュニケーションにも、一昨年JIS化された「コミュニケーション絵記号」が有効であることを実感した。

☆…そのコミュニケーション絵記号を使って、人々の対話を助ける「ボード」を作る事業も進めている。手話通訳士の信井洋子さんからいただいたさまざまなヒントの中に、「聞こえない人は落とし物をして、音がしないので気づかない時があり、落とし物をする人が多いように思う」という話もあった。

すべての元は「人のニーズや不便さ」である。心の目、耳、指でしっかり「ニーズや不便さ」を聞くことが一番重要と、改めて思う。(★)

共用品通信

【トピックス】

○花王、「暮らしのボイスガイド2007年版」を発行
今年で9回目となる視覚障害者向け音声情報デザイン版CDを制作し、全国の盲学校、点字図書館などに配布。希望者には無料で送付する。問い合わせは同社コーポレートコミュニケーション部門社会貢献部(TEL:03-3660-7057)まで。

【共用品推進機構の動き】

○第1回アクセシブルデザイン検討委員会(本委員会)(7月5日)
○第1回アクセシブルデザインミーティングWG(7月26日)
○第1回消費生活製品の点字表示に関するJIS原案作成委員会(8月30日)

【展示会】

○「子ども観ヶ見学デー」
経済産業省主催の子ども観ヶ見学デーで、共用品を展示。(8月21～23日)

【講演】

○自動販売機工業会(7月5日)

自動販売機工業会で星川がアクセシブルデザインの標準化について講演を行った。

○全国建設研修センター「ユニバーサルデザイン研修」(9月3日)
UD研修の一コマとして、「暮らしの中のユニバーサルデザイン」をテーマに高嶋が講演。

【来訪・来所】

○跡見学園女子大学 学生インターンシップ(7月30日～8月10日)
○未来塾 高校生就業体験(7月30日～8月3日)

＜読者の皆様へのお願い＞

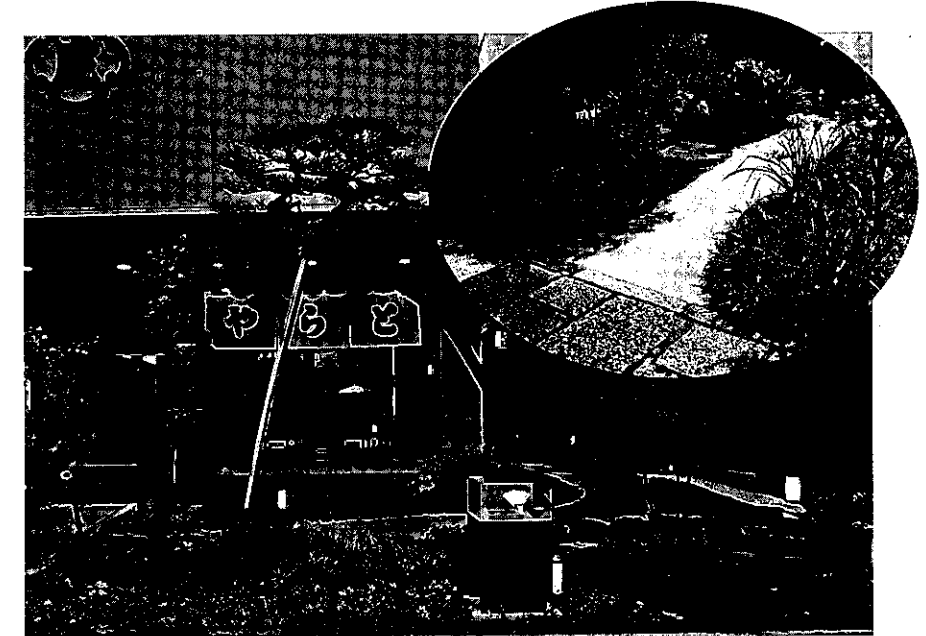
「共用品通信 情報アラカルト」欄では新製品・新サービス、セミナー・講演・展示会、モニター募集など、個人・法人賛助会員の皆様からのお知らせも掲載致します。事務局「インクル編集担当宛て」に、ニュースリリース、イベント案内などの情報をお寄せください。Eメールも歓迎です。



とらや「虎屋菓寮」(喫茶)

ハード、ソフト両面から「バリアフリーのおもてなし」

■とらや「虎屋菓寮」
 ▼業態：とらや直営店、一部百貨店の喫茶
 ▼店舗：赤坂本店、東京ミッドタウン店、四条店など全国に10店舗。
 ▼帝国ホテル店：東京都千代田区内幸町1-1-1(帝国ホテル本館地下1階アーケード内、TEL：03-3597-2077)
 ▼京都店：京都市上京区一条通烏丸西入(TEL：075-441-3113、来年2月20日から09年春まで全面リニューアルのため一時閉店)
 ▼問い合わせ先：とらや注文センター(TEL：0120-45-4121)
 ▼ホームページ
<http://www.toraya-group.co.jp/>



全販売員対象にサービス研修

和菓子の老舗・とらやが展開する「虎屋菓寮」は、同店製の羊羹、季節の生菓子などをゆったりとした雰囲気味わえる高級喫茶店。近年、各店舗ごとに、段差の解消、車いすやベビーカーでも楽に通れる動線の確保など、バリアフリー対応の改装に力を入れている。発

祥の地・京都の一条通烏丸西入にある京都店では、2003年8月の改装で多目的トイレを設置したほか、正面入り口にスロープを設け、車いすの人でも楽に入れるようにした(=写真上)。東京・帝国ホ

テル店では04年8月、共用通路と店の入り口との間の小さな段差にスロープを設置。そこに矢印形の目印を付けて「傾斜あり」を注意喚起する独自の工夫を施している(=写真下)。

さらに今年度から来年度にかけて、和菓子販売店を併せ約400人の全販売員を対象にした「サービス介助研修」も実施。高齢者、視覚・聴覚障害者、車いす使用者への対応、身体障害者補助犬の受け入れなど、バリアフリーサービスの技能向上に取り組んでいる。

このほか、店頭の価格カードや商品パンフレットの文字を大きくするなど、高齢の顧客に配慮したきめ細かな対応を進めている。

(高嶋健夫)



アクセシブルデザインの総合情報誌

インクル 第50号

2007(平成19)年9月25日発行

"Incl." vol.8 no.50

©The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation), 2007

隔月刊、奇数月発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

※視覚に障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 財共用品推進機構

郵便番号 101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

森川 美和

金丸 淳子

水野由紀子

松井 亨倫

米井健治郎

田中由紀子

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 浅和 一雄

(五十音順) 後藤 芳一

高橋 玲子

竹島 恵子

山本百合子

印刷・製本 ベスト・イーグル(株)

サンパートナーズ(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、財共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。



古紙配合率100%再生紙を使用しています